

# 回生 ニュース

K a i s e i N e w s



社会医療法人 峰和会

104号

2019.1月発行

発行/社会医療法人 峰和会

編集/鈴鹿回生病院

所在地/鈴鹿市国府町112番地の1

TEL/059-375-1212

FAX/059-375-1717

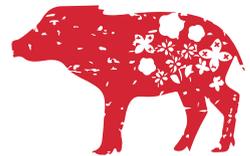
URL/http://www.kaiseihp.com

編集協力/TCKnagoya



社会医療法人 峰和会  
理事長 長谷川 静生

# 2019 迎春



明けましておめでとうございます。  
平成最後となる年末を過ごし新年を迎えました。一つの時代の終わり  
と新しい時代の始まりを感じます。

昨年4月に医療界では6年に一度の診療報酬、介護報酬の同時改定が行われました。7対1看護病床の政策的見直しが進められている中、その影響を探る上で病床機能の救急病床と回復期病床のバランス等、回生病院にも関係の深い問題に様々な角度から改定の影響を評価しているところですが結論はもう少し先になりそうです。一昨年認可を頂いた地域

医療支援病院も昨年度から現実に動き始め病院、診療所、行政、市民との「連携」のもと断わらない医療が定着しつつあるように思います。

平成30年は地震、大型台風、火山の噴火、加えて記録的猛暑等々多くの自然災害に見舞われ大きな被害が発生した1年でした。自然に対する人間の無力さを思い知った1年でもありましたが、昨年の漢字に「災」の字が選ばれたのはこの様な世情を反映してのことでしょう。是非とも今年は無事な一年であって欲しいと願うばかりです。

今年は国政選挙の年でもあります。そして我々医療界にとっても影響の大きい働き方改革法案、消費税増税の施行年度でもあります。政治的、経済的な改革のスピードは想像以上に速くそして激しそうです。取り残されぬよう着実な一步を気を引き締めて進めてまいりたいと思いますので2019年もどうぞよろしくお願いいたします。



2019

# 両院長より新年のご挨拶

## 改元の年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

今年は、平成という元号が4月30日をもって幕を閉じ、5月1日から新元号になるという新しい時代の幕開けとなります。平成は、その意味に反して多くの自然災害に見舞われた時代であったように思います。悪い流れを断ち、明るい未来を引き寄せられるような素晴らしい元号が定められて、元号の意味するところに負けない新時代がやってくることを期待せずにはられません。近年、AI（人工知能）、IoT(Internet of Things) などをはじめとする、テクノロジーの進展は目覚ましいものがあり、その波は医療の分野にも押し寄せています。一方で、加速する少子高齢化により、疾病構造も変化しています。例えば高齢者における認知症の増加はいうまでもなく、ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルといった病態概念が取り沙汰され、それらの予防や治療が重要視されてきています。こうした新しい流れの中で、これからの病院は、地域完結型の医療へ転換が必要とされてくる地域医療構想の中心として、どのような役割を果たすべきか、どのような個性を出していくのかを真剣に考えねばなりません。



鈴鹿回生病院  
院長  
加藤 公

昨年、鈴鹿回生病院は、地域医療支援病院として、地域に根ざした、地域の皆様のための基幹病院として医療の提供を行ってまいりました。現在、病床機能としては高度急性期・急性期病棟のほか、回復期機能としての地域包括ケア病棟も運営しています。そして、今後も疾病構造の変化に応じた医療需要や財政的な面から病床機能を見直していかねばならないかもしれません。また、必要になればテクノロジーの導入も考慮したいと思っています。しかし、いずれにしても鈴鹿・亀山地域での当院の役割は、あくまで基幹病院として、救急医療から専門的医療にいたる急性期医療の提供が第一であるとの考えは変わりません。

この時代のこの地域に必要な病院として、病診連携、病病連携の強化をはかりながら、皆様に安全で良質な医療を提供し続けられるよう、改元の年を迎えるにあたりスタッフ一同、心を新たにがんばりますので、ご支援よろしく願いいたします。

この時代のこの地域に必要な病院として、病診連携、病病連携の強化をはかりながら、皆様に安全で良質な医療を提供し続けられるよう、改元の年を迎えるにあたりスタッフ一同、心を新たにがんばりますので、ご支援よろしく願いいたします。

## 新たな時代へ

新年あけましておめでとうございます。

昨年11月の総務省による人口推計概算値では、日本の総人口が0.2%減少しました。一方、65歳以上の人口は1.32%増加しております。鈴鹿市も例外ではなく、総人口が減り、高齢化率も23.3%となりました。まだ三重県の中では低い方ですが、今後ますます高齢化が進むでしょう。いよいよ本格的な少子高齢化社会に向けて、病院と連携して対策を講じなければなりません。さまざまな疾病を抱える方も増える予想されます。附属クリニックは、急性期医療と専門外来を充実させ、より高度な医療と安心安全な医療の提供を心がけて参ります。

今年は元号が変わり、10連休になる予定です。しかし医療機関が10連休となると、患者さんには大変なご迷惑をおかけする事になってしまいますので、支障ないように、現在調整中です。

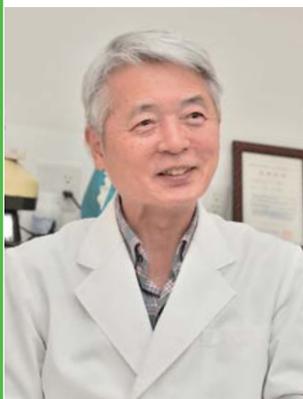
患者さん満足度調査では、待ち時間についてご意見をいただいております。しかし、待ち時間は丁寧な医療の裏返しになっています。いわゆる3分間診療にならないよう、丁寧な診療を心がけ、工夫をしながら皆様のご期待に添えるよう努力いたします。何とぞご理解をいただきますようお願いいたします。新しい年に向けて、職員一同頑張っておりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



鈴鹿回生病院附属クリニック  
院長  
田中 公

## 連携医療機関紹介

## ばんクリニック



◀ 伴英昭院長



▶ 伴直昭医師

## 8月にリニューアルしました

ばんクリニックは石薬師町交差点を西に約1キロ弱のところにあります。今年の8月新生オープンしたばかりのフレッシュなクリニックです。

白を基調とした明るい院内はすべてバリアフリー。小さなお子様連れでも靴を脱いですごせるキッズコーナーもあり、お年寄りにもお子様にも優しいクリニックです。

院長の伴英昭先生は、昭和44年（1969年）3月三重大学医学部をご卒業後、三重大学附属病院や塩浜病院などの医療機関にて小児科医として研鑽を積まれ、昭和58年（1983年）8月、ここから少し離れますが同じ石薬師町にばん小児科を開業されました。

「私が開業した当時はこの地域には小児

科医が少なく、私以外3人しかいなかったんですね。遠い親戚に小児科医がいたことも影響し、小児科医を志し、早いもので今年で開業35年が経過しました。長くやっていると、当時の患者さんがお父さんお母さんになって診療に訪れます」と、感慨深げに話されます。

ご子息の直昭先生は藤田保健衛生大学（現藤田医科大学）を平成17年（2005年）にご卒業後、大学病院、豊橋成田記念病院などの医療機関にて研鑽を積まれました。

そして2018年8月18日。ばん小児科は、小児科医であるご尊父さまと、呼吸器内科医であるご子息による「ばんクリニック」として生まれ変わりました。

直昭先生は、これまで名古屋の藤田保健衛生大学ばんたね病院に研修を含め12年勤務しておられた先生です。名古屋ではなく、この地に開業された理由を伺うと、「自分が育ったこの生まれ故郷以外での開業は考えていませんでした。開業するならこの地で医療に貢献したいと思っていました」と、地元愛の強さがうかがわれます。

## 高齢者の喘息

内科専門医として内科全般の診療を幅広く行っている直昭先生ですが、中でも呼吸器科、アレルギー科をご専門とされています。ご専門の疾患の最近の傾向についてうかがいました。

「高齢者の気管支喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）など、初期の喘息がかなり見逃されていることが多いですね。長引く咳や、日中はおさまっているのに夜間だけひどくなる咳などには、医療機関の受診をおすすめします。喘息は、体の中に炎症を起こす細胞がいるのですが、それが夜間活発に動きだし、気管支に悪さをします。気管支の粘膜に慢性的な炎症を起こし、炎症細胞が活発に動く夜間にひどくなるのです。特に最近は高齢者喘息が問題になっています。咳、たん、風邪の後の咳

## DATA

TEL 059-374-0020

## 住所

鈴鹿市石薬師町2159-1

## 診療科目

●内科●呼吸器内科●小児科  
●整形外科●アレルギー科●皮膚科

## 診療時間

午前／8時30分～12時00分

午後／3時00分～6時30分

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

土曜日：8時30分～13時00分

## 休診日

木曜午後、土曜日午後、日曜、祝日



が止まらない、また花粉症と間違えてしまっている方も多いですね。喘息の7割の方がアレルギー性鼻炎を合併するといわれており、アレルギーなのか喘息なのか判別が難しいため、長引く風邪の場合は必ずレントゲンをとることをおすすめしています。おかしいな?と思ったら、我慢せずにお越しください。状態によって紹介が必要な場合は然るべき医療機関に紹介させていただきます。紹介の見極めもかかりつけ医の役目だと思っています」。

## 患者さんへのメッセージ

～父が開業したばん小児科から35年。36年目、これからはばんクリニックとして父が小児科、私は内科全般を担当し、お越しいただいた患者さんには満足してお帰りいただけるよう皆様に親しまれる優しいクリニックをめざし、あたたかい医療の提供を心がけて参ります～  
今後もこの地域のかかりつけ医としてご活躍されることでしょう。

ロコモシリーズ Part4 ロコモと栄養

ロコモとメタボ(メタボリックシンドローム)には関係があります。重すぎる体重は足腰に余計な負担をかけてしまいます。反対に痩せすぎも、身体を支える筋肉が少ないため、負担がかかります。

身体をつくるには「○○だけ食べれば大丈夫」と言うことはありません。主食(お米や麺類)に加えて、毎食、主菜(肉・魚・卵、大豆製品のおかず)を1品、副菜(野菜・きのこ類・イモ類のおかず)を1品、添えましょう。牛乳や果物も毎日摂れると更にバランスが良くなります。



理学療法士  
加藤 俊宏

毎食バランスを揃えるのが難しい人は、1日の食事の中で、もしくは1週間の中で無理のない程度に意識していくことから始めましょう。



発信@  
栄養管理室

管理栄養士  
村上 清香



●もち

市販の切り餅1個は約120kcalあり、5個で600kcalとなり、ヘルシー定食1食分に相当します。もちのアレンジ料理の多くはおかずメニューが多いため、もちを含んだおかずをご飯で食べてしまったら糖質の重ね摂りとなり、エネルギーが高くなるのはもちろん、血糖値が上がりやすくなってしまいます。ただし、ご飯を食べるよりもカサが小さく消化もよいので、エネルギーがたくさん必要なスポーツ選手などに用いられることがあります。今回のアレンジメニューはもち入りパンケーキを主食とし、不足する栄養をエビや野菜を加えて栄養と見た目もバランスよく仕上げました。

【栄養成分】1人分あたり

エネルギー	530kcal
たんぱく質	24.1g
脂質	16.4g
炭水化物	68.0g
塩分	1.5g
食物繊維	2.8g

もち

ピックアップ食材



正月であまった切り餅を利用して

たまねぎを薄くスライスしたものをオーブンで100℃に熱してカリッとさせたものを飾りとして使用しています



もちもちブレックファースト

【材料】(2人分)

切り餅	1個
小麦粉	100g
ベーキングパウダー	5g
卵	1個
砂糖	大さじ1
牛乳	1/2カップ
トマト	1個
レタス	2枚
ブラックタイガー	8尾
貝割大根	半パック
黄パプリカ	1/2個
マヨネーズ	大さじ2
柚子胡椒	1cm程度
わさび	0.5cm程度
オリーブオイル	大さじ1/2
酢	大さじ3弱
砂糖	小さじ2

【作り方】

- ①切り餅を細かく切り、水50ccを入れてレンジで500W3分くらい温め、ドロドロにする
- ②①に牛乳、卵、砂糖を入れてよく混ぜ、Aをふるったものを入れていく
- ③ブラックタイガーは皮をむき背わたを取りゆでる
- ④トマトはスライス、レタス、貝割れは一口大に切り黄パプリカは薄くスライスし、軽くゆでる
- ⑤Cに③と黄パプリカを入れて漬けておく
- ⑥テフロンパンに②を入れて焼く
- ⑦⑥の上に具材のをせBを良く混ぜたものをかけて完成

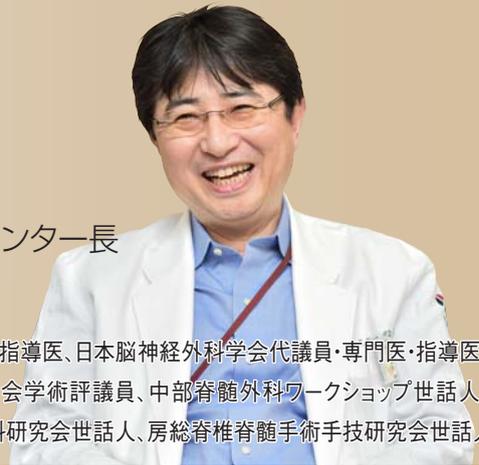
このコーナーでは毎号当院のドクターを紹介してまいります。

# Doctors List

**水野 正喜** みずの まさき 脳神経外科 脊椎・脊髄センター長

専門領域:脊椎・脊髄の治療、末梢神経障害の外科治療、神経外科一般

資格:三重大学医学部 脊髄末梢神経低侵襲外科 教授、日本脊髄外科学会理事・指導医、日本脳神経外科学会代議員・専門医・指導医、日本脊髄障害医学会評議員、末梢神経の外科研究会世話人、近畿脊髄外科研究会学術評議員、中部脊髄外科ワークショップ世話人、Summer Forum for Practical Spinal Surgery 世話人、低侵襲内視鏡脊髄神経外科研究会世話人、房総脊椎脊髄手術手技研究会世話人



## Q1. 出身地はどちらですか？ 幼少時の思い出を聞かせてください

静岡県富士市出身です。3人兄弟の末っ子で姉が2人います。実家は富士山の麓の南側にあり、富士山を見るには絶好の場所を毎日通学で歩いていた感じです。ただ富士山には車で5合目までしか登ったことがありません。(笑)



## Q2. なぜ医師をめざしたのですか？

6歳の時にアポロ11号が月面着陸したのを覚えていて、工学系、サイエンス、物づくりに興味がありました。しかし高校時代はバドミントン部に所属し、2年生の秋に腰を痛めまして、整形外科にかかり腰椎分離症と診断されました。それまで注射が大嫌いで病院嫌いでしたが、この治療をきっかけに、医師という職業に興味を持ち始めたように思います。

## Q3. 学生時代の思い出をお聞かせください

初めて三重に来た時は、あまりにも何もなくてびっくりしたのを覚えています。しかし住めば都。学生生活は解放された感じで、初めての1人暮らしを満喫していました。料理も好きだったので苦になりませんでした。大学でもバドミントン部に入部し、生活のウェイトはバドミントン8割、勉強2割でした。夜は9時頃まで練習、夜中まで友達と遊んで、朝は10時頃起床、学食を食べに大学へ、午後からまた練習、という(笑)。賢い友人のノートを借りて試験前には勉強していましたので、不思議と留年や追試はなく、要領よくこなしていました。



## Q4. 脳神経外科を 専門にしたのはなぜですか？

三重大学に入った当時は整形外科を目指していました。ところが講義を聞いたり実習をまわっていくうちに脳神経外科の手術にインスピレーションを感じたんですね。顕微鏡を使った精密な部分、そして脳を見ることがとても神秘的で、サイエンスという意味では脳に興味を引かれたんです。三重大学の脳神経外科は脊椎脊髄も手術されていたので、脳神経外科を選べば両方の道、いわゆる脳も脊椎もできるということで、最終的には脳神経外科を選んだんですね。

## Q5. 趣味や好きな事 (ストレス発散方法など)は何ですか？

時間が有れば旅行に行きたいです。学生時代は大会で西日本へ、医師になってからは、学会等で関東方面にも行くようになり、2年ほど前、47都道府県全て制覇しました。海外にも行かせていただく機会は多いのですが、まだまだ日本で行きたい場所は沢山あります。当然富士山も登っていません(笑)。なかでもお気に入り、北海道。昔は飛行機に自分のバイクも積んで行けたんです。北海道の自然の中をバイクで走るのは爽快でした。整形の森田先生は同級生なのですが、彼もバイクに乗っていたんですよ。僕らの頃はとても流行ったんです。私は中型免許でしたので400ccのバイクに乗っていました。



## Q6. 今後力を入れて 行きたいことは何ですか？

この地域で脊椎脊髄疾患で困っている人のお力になりたいです。手術をしなければならない方でも内視鏡などで低侵襲の治療を心がけ、患者さんのQOLに配慮した治療をめざしています。

## Message

患者さんへのメッセージ

脊椎の手術は怖いと思われがちですが、皆さん満足してお帰りいただいておりますので、今後も安全な手術を提供して参りたいと思っております。

## 研修医同窓会を開催しました

11月10日(土) 研修医同窓会を開催しました。研修医制度が始まって15年、当院ではこれまで67名の研修医を輩出してまいりました。お世話になった指導医を囲み、総勢50名が旧交を深めました。当院出身の研修医 OB が多方面で活躍している姿は大変喜ばしく誇らしいものでした。



## 第15回健康セミナーを開催しました

12月8日(土) 健康セミナーを開催しました。74名にご参加いただき、禁煙・栄養・運動についての講演、簡単ストレッチ、計測コーナー、健康・栄養相談、脳卒中についてのポスター展示を行いました。来年のご参加もお待ちしております。



## 鈴鹿シティマラソン

12月16日(日) 第21回鈴鹿シティマラソンが鈴鹿サーキットにて行われました。当日は医科学相談コーナーを設置、救護班に救急車を配置して、当院から専門医師をはじめ多くのスタッフを派遣し、走者のサポートを行いました。



## クリスマスコンサート2018

12月1日(土) 恒例のクリスマスコンサートを開催しました。当日は職員によるハンドベル演奏、院内サークル「響」による三味線演奏や院内保育所「回生キッズ」の子供達によるダンスの披露が行われました。また、今回は西部少年少女合唱団の皆様によるゲストコンサートが行われ、子供達の美しい歌声を披露頂きました。



## ほっと smile

## メディカルチェック&トレーニング研修を行いました



平成30年11月24日に当院スポーツ医学センターにて三重県フェンシング選手のメディカルチェック&トレーニング研修を行いました。当日は関節可動域、バランス検査、足部筋力測定、超音波検査、MRI 検査を行い、選手へ結果をフィードバックしました。

ケガをしたことがある選手は、身体の柔軟性が低い傾向があり、ストレッチング指導時には熱心に受講されていました。



## 看護補助職員を募集しています。正職員2名

患者さんの日常生活援助、ベッドメイキング等を行って頂きます。経験のない方も大丈夫です!! 病院見学も随時しております。お気軽にお問い合わせください。

担当: 看護部 横田

TEL 059-375-1332(看護部直通)

## 編集後記

今回は「新年のご挨拶」を中心に、医療連携紹介などをお送りいたしました。皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。

鈴鹿回生病院 広報委員会

〒513-8505 三重県鈴鹿市国府町112番地の1

TEL 059-375-1212 mail: info@kaiseihp.com

### 病院の理念

### 生命への奉仕

### 病院の方針

- ▶ 地域の基幹病院として医療と健康の増進に貢献します
- ▶ 個人の尊厳を守ります
- ▶ チーム医療を推進し安全で高度な医療を提供します
- ▶ 将来を担う有能な医療従事者の育成に努めます
- ▶ 地域と連携し災害時救援活動を行います
- ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます